

茨城県現代俳句協会会報

No.141
2022年7月

三年ぶりの対面 通 常 総 会 開 催

地区別句会は筑西市・吟行会は西念寺

三年ぶりに茨城県現代俳句協会通常総会

が、水戸市の県立青少年会館で開催された。

協会の伝統として総会は四月二十九日「昭和の日」と決められ受け継いでいる。二年連続の紙上総会となり、会員の皆さまへ歎がゆい想いをさせてしまったことを改めてお詫びするとともに、当日参加者二十九名、委任を含めた総会成立が七〇%を越える高いものであつたことに感謝したい。

令和三年度は史上初めて、入会者が退会者を上まわる嬉しい結果となつた。又、初めての取り組みとして「地区別句会」を県南地区で開催（開催間近にコロナで会場が使用不能

となり紙上大会に変更）十七名が参加した。

令和四年度は県西地区での開催が決定された。

そして、久しぶりに「全句講評講座」を本部副会長・秋尾敏先生をお招きし開催することができた。吟行会はコロナの関係で、四年度に同じ笠間地区での開催を決定した。総会は議案すべてを満場一致で決定の後、句会へと移つた。



中央は高橋和彌会長

右は総会参加の新人会員飯田ヒロ子さん
左は同じく高野紀世子さん

第59回現代俳句全国大会の作品
募集中です。皆様奮って御応募
下さい。「〆切・八月一日」

令和四年通常総会句会結果

(高得点順)

戦なき空を自在につばくらめ 飛田 伸夫
啓蟄や出土の土偶生あくび 森井 省二

初音まで吸い込みそうな深呼吸 北田 久雄

薄氷と人をこわしてゆく戦車 根本菜穂子

その獲物略奪ですか 蟻の列 北田 久雄

寂庵の笑いの法話花明り

佐藤 和子

フラフープ投げて春風くぐらせる

佐藤 和子

甦る父のげんこつ昭和の日 大野ひろし

ひと吹きに百の宝石しゃぼん玉 大野ひろし

佐藤 和子

明日にでも核飛ぶ不安昭和の日 山口 富雄

鶴岡しげを

純白の襟の眩しく卒業す 塩谷きみこ

佐藤 和子

感性は薄れゆくもの新樹光 東ヶ崎禎子

根本菜穂子

種子を時く生きる証の糧となり 佐藤 和子

根本菜穂子

おおかたは空氣でありし春ショール

(参加者作品・順不同)

洪水の跡の碑さへづれり 高野よしこ

惜春てふ文字の消えゆく汀かな 菅原仲江

葱の花憂ふる先のウクライナ 春泥やみんなまんまる田舎の子 村田妙子

落椿焼火のように固まりて 新井 洋澄
母と行く墓参の小径沈丁花 淀名和さち
止まり木を設けて待ちし青葉木菟 齋藤 和子

蓬摘むとなりに祖母といもうとと 伊沢とよ子

新井 洋澄
春満月浅瀬で遊ぶ一枚貝 岡里 兵子
魁や烈公梅の五六輪

計報欄まづ見てしまう桜かな 黒澤みどり
若き日の歌声喫茶遠霞 笠原 壮介

闘伽桶に想いを満たす春の水 高橋 和彌
傷ついてやさしくなつて弥生尽 安田 政子

げんげんやかの地を察じ八〇〇〇キロ

蓬摘むとなりに祖母といもうとと 伊沢とよ子

つちふるや掴みどころのない話 宮路 久子

平坦につまずく齡春寒し 糸賀 瞳子

キヤンバスの六場覚えぬまま卒業鈴木 蔭江

露味噺の旨み後ひくほろ苦さ 高野紀世子

第39回現代俳句茨城大会・募集句は、

お陰さまで皆様の御支援によりまして、

千三百句を越える句をいただきました。

ありがとうございました。

総会後の句会風景

2022/04/29



第39回現代俳句茨城大会・募集句は、
お陰さまで皆様の御支援によりまして、
千三百句を越える句をいただきました。
ありがとうございました。
(第39回茨城大会実行委員会)

(文責・山口富雄)

★お知らせ★

龍ヶ崎市の松本敬子様より、一万円のご寄付をいただきましたのでご報告いたします。

令和3年度活動報告

行 事 名	内 容
1. 令和3年度通常総会 (済)	令和3年4月29日 笠間市友部・トモア。参加23名・委任を含め信任74%。 句会：安藤玲子・宮路久子・大野ひろし・山口富雄・根本菜穂子・伏屋雅子・伊沢とよ子・村田妙子・高橋和彌・飛田伸夫・岡里共子
2. 第38回茨城俳句大会 (済)	令和3年7月22日(木)海の日 笠間市・交流セントートモア。 講師：現俳本部副幹事長・佐怒賀正美先生。実行委員長 小松崎黎子。事務局長・山口富雄。募集句1,074句。募集句入賞：小沼悦子・笠原真枝・高塚文子・大野ひろし・高野よしこ・黒澤みどり・安藤玲子・中川芳子・小川みのる・川崎とみこ・他（当日参加66名）当日句(正)入賞・大野ひろし・小沼悦子・森井省二・笠原真枝・伊沢とよ子・他
3. 第29回作品奨励賞 (済)	(対象・未受賞者全員)、30句。締切り5/31。2名応募。7/5選考会。 結果：奨励賞2名。永井淑子・矢口富久。大会で表彰。
4. 第33回吟行会 (来年度へ延期)	令和3年9月17日(金) 笠間市稻田469・稻田禪房・西念寺 親鸞聖人立教開宗の聖地 関東20年の本拠 教行信証ご執筆 コロナウイルスの感染が収まらず、中止。令和4年に実施予定。
5. 会報の発行 (済)	(No.138～140)発行。No.138は総会・No.139は第38回大会・No.140は地区別句会など 担当：高野よしこ・佐藤和子(アイデアを取り入れた企画にご協力を)
6. 会員の動静	令和3年以降入会 板羽未知子・関口登司郎・星弘子(安藤玲子様紹介)。小沼悦子・高野紀世子・飯田ヒロ子(宮路久子様紹介)。月島理華 つくば短歌会 山田美枝子(軸主宰・秋尾敏様紹介)。水蝶まゆみ(本部・水野事務局長様紹介)。 令和3年度末現在本部登録98名・退会者は総会資料で説明
7. 県内の俳句大会 (済)	第7回紳の街ゆうき蕪村俳句大会・9月4日(紙上大会) 第44回茨城県芸術祭参加大会(11月3日)ホテルレイクビュー水戸で開催 第15回筑西市芸術参加俳句大会(11月17日)アルテリオで開催
8. 全句講評句会 秋尾敏先生全句講評 講座 in 茨城 (済)	令和3年11月16日(火)水戸市・青少年会館。講師：現俳本部副会長・秋尾敏先生 参加者 33名(特選) 高野よしこ・伊沢とよ子・高野紀世子(入選) 宮路久子・新井洗澄・根本菜穂子・高橋和彌・安田政子・齋藤和子・山田美枝子
9. 会員地区別句会 (南部地区) (済)	令和4年1月23日(日) コロナ感染者の拡大により紙上句会として開催17名参加 (入賞) 安藤玲子・宮路久子・宮本喜実世・佐藤和子・小松崎黎子・森井省二・伊沢とよ子・村田妙子 詳細は会報140号に掲載

令和3年度茨城県現代俳句協会収支決算報告書

令和4年4月29日

会計 村田 妙子
会計 岡里 共子

1. 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
繰り越し	425,796	425,796	0	
会 費	90,000	91,000	1,000	1,000×91名
助 成 金	180,000	200,000	20,000	2,000×100名
雑 収 入	4,204	53,044	48,840	利子4円 38回大会残金32,040円 ご寄付・宮本喜美世様より11,000円 ご寄付・高橋和彌様より10,000円
合 計	700,000	769,840	69,840	

2. 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
総 会 費	30,000	15,050	14,950	総会句会会場費・賞品・その他
事 業 費	30,000	17,108	12,892	全句講評句会会場費・賞品代など
会 議 費	70,000	34,969	35,031	会場費・幹事旅費・採点時昼食等
広 報 費	220,000	161,240	58,760	138号～140号発刊費用
事 務 費	120,000	159,850	△ 39,850	通信費(総会・事業・会議・等含む)
顕 彰 費	45,500	28,292	17,208	第29回奨励賞賞品・郵送費・その他
慶弔 費	20,000	15,000	5,000	高橋哲夫様・飯塚美紅様ご香料 第44回芸術祭参加俳句大会ご祝儀
準 備 基 金	118,000	0	118,000	
予 備 費	46,500	0	46,500	
合 計	700,000	431,509	268,491	

(収入総額) 769,840円 - (支出総額) 431,509円 = 338,331円
差引残高 338,331円は次年度へ繰越します。

会計監査報告書

令和2年度の現金出納簿、領収書、通帳及び現金について監査の結果、適正であることを証明します。

令和4年4月17日

茨城県現代俳句協会会計監査

根 本 きよ志



茨城県現代俳句協会会計監査

黒 沢 弘 行

令和4年度活動計画

行 事 名	内 容
1. 令和4年度通常総会	令和4年4月29日 水戸市・青少年会館。参加29名・委任41名・信任72.7%。句会：
2. 第39回茨城俳句大会	令和4年7月18日(月)海の日 水戸市・青少年会館。講師：現俳本部副幹事長・佐怒賀正美先生 大会会長・高橋和彌 実行委員長・根本菜穂子 副実行委員長・飛田伸夫・小松崎黎子 事務局長・山口富雄。
3. 第33回吟行会	令和4年9月9日(金) 笠間市稻田469・稻田禪房・西念寺 親鸞聖人立教開宗の聖地 関東20年の本拠 教行信証ご執筆 昨年の計画同様、山田健太事業部長を中心に計画を進行予定
4. 会報の発行	(No.141～143)発行。No.141は総会・No.142は第39回大会を中心編集担当：高野よしこ・佐藤和子(新しい企画等にご協力をお願いします)
5. 会員地区別句会 (県西地区)	令和5年1月 筑西市で開催予定
6. 第30回作品奨励賞	作品奨励賞選考委員会において検討・結果 来年度の総会に提案する
7. 県内の俳句大会	第45回茨城県芸術祭参加大会(11月3日)水戸市内で開催予定 第8回紬の街ゆうき無村俳句大会・9月3日(結城市市民情報センター) 第17回筑西市芸術祭参加俳句大会(10月16日)アルテリオ
8. 全句講評句会	本部からの要請があれば幹事会で検討する

令和4年度茨城県現代俳句協会予算書

令和4年4月29日

会計 村田 妙子
会計 岡里 共子

1. 収入の部

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
繰 越 金	338, 331	425, 796	△ 87, 465	
会 費	90, 000	90, 000	0	90名を想定
助 成 金	180, 000	180, 000	0	90名を想定・本部から1名、2千円補助金
雑 収 入	21, 669	4, 204	17, 465	余剰金・利息ほか・松本敬子様より1万円
合 計	630, 000	700, 000	△ 70, 000	

2. 支出の部

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
総 会 費	25, 000	30, 000	△ 5, 000	総会句会会場費・賞品等
事 業 費	30, 000	30, 000	0	吟行会・地区別句会会場費・賞品等
会 議 費	75, 000	70, 000	5, 000	会場費(幹事会・幹事会旅費・役員改選等)
広 報 費	210, 000	220, 000	△ 10, 000	141～143号発刊費用
事 務 費	160, 000	120, 000	40, 000	通信費(総会・事業・会議等含む)コピー等
顕 彰 費	10, 000	45, 500	△ 35, 500	奨励賞検討委員会・その他
慶弔 費	30, 000	20, 000	10, 000	慶弔金・祝金など
準 備 基 金	50, 000	118, 000	△ 68, 000	
予 備 費	40, 000	46, 500	△ 6, 500	
合 計	630, 000	700, 000	△ 70, 000	

句会探訪

《結城俳句会》

村の一〇年間滯在した街としても継続に頑張つていきたい。

(山口富雄・記)

結城俳句会令和四年四月

定例句会作品

結城俳句会の歴史は45年前に始まる。令和四年四月の定例句会（毎月第三木曜日）で五三七回となる。

かつて県西地区は下館（現筑西市）結城を中心に行句活動の活発な地域であったが、現在では残念ながらその波は小さくなってしまっていることを認めざるを得ない。しかし、県内の多くの皆さんのおかげで「袖の街ゆうき蕪村俳句大会」は本年度で第八回目を迎えることになる。そして、その前身として、故・茨城県現代俳句協会事務局長の大橋静さんが会長の時代に「ゆうき蕪村全国俳句大会」で九回実施している。会員は現在二〇名足らずである。会員の高齢化も他の結社・句会と同様で、年一回の吟行も年ごとに参加者が減っていくのが寂しい。尚、結城俳句会の中でも九回実施している。

現俳に入の方は高橋蕙さん、柳浩二さん、黒沢弘行さん、山口富雄の四名となってしまつた。かつては七名在籍の時代もあつたが、逝去・高齢には勝てない現状である。与謝無



2022.10.19(木)

戦禍にも生まるる命ふきのとう 黒沢 弘行
小面の笑みなまめかし朧の夜 氏家さち子

花おぼる橋の真中は淋しかり 佐竹 嘉子
雉子の鳴く草にうもる鎌の鋸 高橋 薫

車筆摘む音かそけしや野にひかり 北條 朱美
車椅子しつかり括るメーテー旗 柳 浩二

踏青や地球の裏に地雷たち 菊地 久子
相輪の闇に浮かびし影朧 山中 俊夫

街おぼろ百鬼夜行のウクライナ 佐藤たまひ
断捨離や買つてしまつた春の服 中野 和佳

極楽へ架けたい橋あり花明り 橋本 里枝
花つづじ大吊橋のはふはふと 永盛けい子
あの頃の話の尽きぬ橋涼し 鶴見 幸定
古稀脱いでペタル踏みゆく初夏の街

山口 富雄

令和四年吟行・一宮尊徳資料館
陣屋跡にて（5月10日）



『私の歳時記』

「畦塗」

菅原仲江

あ
と
が
き

わが影に畦を塗りつけ塗りつけて 素十
素十は現在の取手市藤代生まれなので親
近感を抱く。長く伸びた影に塗りつけて塗
りつけてとりフレインにしたところに、こ
の仕事の大変さが伝わってくる。

畦を塗る鋤の光をかへしつゝ
花過ぎし峠田の畦を塗る音か
今日塗りし月光の畦走りけり
高きより畦塗りづく棚田守
畦塗りを終てお城に手をかざす

ハル子 虚子
樺邨 加賀 桂峰

さかつた)ので途方もなく時間がかかり、
腰に多大な負担がかかる。

筆者が定年退職後近隣のトマト農家に収
穫のアルバイトに行つた。

三月頃田んぼの真中を自転車を漕いで行く
と水が入つてないのに畦塗りが終わって
いる。不思議に思つてご主人に聞くと、ト
ラクターにセットした畦塗機があるそうで
自動的に畦塗りが出来ると言う。隔世の感
があつた。

実家では兄が六十歳で急逝し二十数年兄
嫁が一人で農業をやり守つてくれれる。
甥が三人いるが全て勤め人で別居している。
春と秋の機械を扱う時は助けてくれるが、
段取り、後始末は全て兄嫁がやつている。
その間に父母を見送り彼岸には私達兄弟の
集りに大いに持て成してくれる。

その時の話題に畦塗りは一番辛い。でも仕
上つた畦を見るのはとても気持ちいいもの
だとも言つていた。三年前に帰省した折自
動的の畦塗り機の事を話した所、実家でも導
入していくあの仕事から解放されたと言う。
本当にほつとした事を思い出す。

畦塗の終へたる田より目見めけり 仲江

本格的な雨の季節に入りました。

近年は温暖化の影響か、記録的な豪雨が繰り
返され多くの方が犠牲になつております。線
状降水帯予測情報発表も開始されましたが、
個人で気象レーダーやハザードマップなどを
こまめにチェックして、早めの避難準備をす
るなど、自分の命は自分で守る姿勢が何より
大切です。

梅雨明けと共に、海の日の「現俳茨城大会」、
そして九月の笠間吟行会が予定されておりま
す。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

(高野よしこ・佐藤和子)

令和四年七月 第141号

発行人 高橋和彌

発行所 茨城県現代俳句協会

〒312-0011 ひたちなか市中根三六〇〇-二六七

編集人 高野よしこ

編集所 行方市手賀二四一六

事務局 〒307-0001 結城市結城二二〇八七一七

山口富雄方

〒315-0013 茨城県石岡市府中一-三-一
石岡印刷有限公司